

第5回 日本ITS推進フォーラム

～新成長戦略に見る地球にやさしい次世代交通システム～

2010年11月24日(水)～25日(木)

会場 建築会館ホール(東京都港区芝5丁目26番20号) 主催 特定非営利活動法人 ITS Japan

後援 インターネットITS協議会、(社)新交通管理システム協会、(社)電波産業会、
(財)道路交通情報通信システムセンター、(財)道路新産業開発機構、
(財)日本交通管理技術協会、(財)日本自動車研究所、(社)日本自動車工業会、
(社)日本自動車部品工業会、(社)日本自動車連盟、(財)日本デジタル道路地図協会

第5回 日本 ITS 推進フォーラムを、2010年11月24日(水)、11月25日(木)の両日 建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)で開催しました。“新成長戦略に見る地球にやさしい次世代交通システム”をテーマに掲げ、ITS 総合シンポジウム、国際セッションに2日間で述べ440名(24日:230名、25日:210名)の方々が会場へ足を運んでいただきました。25日(木)の終了後に交流会を開催し、海外ゲストの方も含め約80名の参加をいただき国内外の方々との交流を深め、盛況のうちに終了することが出来ました。以下、開催概要について報告いたします。(敬称略)



【開会挨拶】

特定非営利活動法人 ITS Japan 会長 渡邊 浩之



急速に進展するネットワーク化や社会の変化の中で、ITS で交通社会にイノベーションを起こすことにより、環境やエネルギー問題を解決し、人々の安心安全な移動を確保して活力を引き出すとともに、経済の活性化にも貢献していきたいと述べたあと、2日間に亘るプログラム内容を紹介挨拶としました。

ITS 総合シンポジウム 11月24日(水) 9:20 ~ 17:20

基調講演、環境未来都市の展望についてお話いただき、政府が発表した「新成長戦略」と「新たな情報通信技術戦略」をご講演いただいた後に、座談会形式で、各省庁のITSの取り組みや国際展開を議論いただきました。ITS Japan から、2015年を目指して検討中のITS総合戦略を紹介しました。また、交通社会の大きな変化を踏まえて、各地で取り組んでいる、スマートシティの実証実験の講演をいただきました。

【基調講演 「環境未来都市」実現に向けて】

東京大学大学院 工学系研究科 システム創成学専攻 教授 宮田 秀明



一般に未熟なマネジメントが創造活動の社会実現を十分助けていないことが多いと、社会システムとITの関連性に触れ、沖縄を観光と環境の県にするプロジェクトを例に、EVタウンの設計法やスマートコミュニティーの設計法の話がありました。その上でプロジェクトマネジメントの大切さについて、プロデューサーやプロジェクトマネージャーらが、企画、設計、建設、経営をしなければならないとの話がありました。

【省庁・ITS Japan 講演】

◆講演 1 「新成長戦略と新たな情報通信技術戦略」

内閣官房副長官補付 内閣参事官 松永 明



政府が発表した「新成長戦略」や IT 基本法とこれまでの経緯、更に、「新たな情報通信技術戦略」の検討経緯や概要の話があり、その中でグリーン ITS と安全運転支援の取り組みについて具体的な紹介と、今後の進め方についてお話がありました。

◆講演 2 「ITS 総合戦略 2015」

ITS Japan 常務理事 花井 利通



これまでの ITS の活動を振り返り、ファースト・ステージでの実用化の推進状況やセカンド・ステージでの普及と社会還元加速の取り組み状況について紹介し、社会的課題を解決して、持続可能なモビリティの実現を目指し、ITS の次のステージで、ITS Japan が取り組む領域と新たな検討テーマの位置づけについて紹介をしました。

【座談会「新成長戦略と ITS」】

警察庁 長官官房参事官 加藤 晃久
総務省 総合通信基盤局 電波部移動通信課 新世代移動通信システム推進室長 越後 和徳
経済産業省 製造産業局 自動車課 電池・次世代技術室長 ITS 推進室長 辻本 圭助
国土交通省道路局 道路交通管理課 高度道路交通システム推進室長 大庭 孝之
国土交通省自動車交通局 総務課企画室長 村田 茂樹
進行:ITS Japan 専務理事 天野 肇



各省庁の ITS 推進参事官、室長にご登壇いただき、省庁毎の戦略やビジョンを紹介いただいた上で、領域ごとの今後の取り組みについて議論いただきました。更に、国際展開について議論いただいた後、最後に意気込みと民間への期待を一言ずつお話していただきました。

【未来技術講演】

◆講演 1 「次世代自動車用二次電池の現状と将来」

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スマートコミュニティ部 蓄電技術開発室 室長 弓取 修二



世界における蓄電池開発関連動向と、昨年末に閣議決定された「新成長戦略」の6つの戦略分野の中で、強みを活かす成長分野として環境・エネルギー政策が挙げられていることの紹介があり、国の次世代自動車戦略や蓄電池システム産業のあり方に沿って NEDO が開発を推進している次世代自動車用二次電池の現状と将来についての紹介がありました。

◆講演 2 「電気自動車のためのワイヤレス充電の現状と将来」-走行中充電に向けて-

龍谷大学工学部電子情報学科 教授 粟井 郁雄



ワイヤレス給電方式の分類と取り組みの歴史の紹介があり、横浜国立大学が提案している共振器結合方式と、龍谷大学が提案している線路結合方式の原理や性能について紹介があり、これらは取り組み開始から日が浅いため実用化に向かっている道半ばであり、これから更に研究を進めていくとお話がありました。

【スマートシティ講演】

◆講演1「スマートグリッドからスマートコミュニティへ」

経済産業省資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部政策課 新産業・社会システム推進室 室長 飯田 健太



再生可能エネルギー導入の必要性和課題に続き、スマートコミュニティの必要性について話があり、スマートグリッドのねらいと海外動向の紹介に続き、スマートコミュニティ国内実証実験の必要性和各地域での取り組み状況及び海外展開についてのお話がありました。

【次世代エネルギー・社会システム実証地域の取り組み】

◆講演2「北九州スマートコミュニティ創造事業」

北九州市環境局環境モデル都市推進室 担当課長 柴田 泰平



北九州市の近代化を支えた工業化と共に取り組んできた公害克服の歴史に触れた後、北九州スマートコミュニティ創造事業について、実施地区である八幡東田地区での具体的取り組みとモビリティ関連事業の基本的な考え方や概要の紹介がありました。

◆講演3「愛知県豊田市における『家庭・コミュニティ型』低炭素都市構築実証プロジェクト」

豊田市経営政策本部長 太田 稔彦



市民にメリットのある低炭素社会づくりに向け、自治体と企業が連携し推進している実証計画の概要と推進スケジュールの紹介があり、地方都市型低炭素社会のモデル都市を作り上げ、世界にも貢献できるシステムとして豊田市から発信していくとのお話がありました。

◆講演4「けいはんなエコシティ『次世代エネルギー・社会システム』実証プロジェクトの概要」

(財)関西文化学術研究都市推進機構 けいはんなエコシティ・次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクト推進協議会 総括幹事(三菱重工業株式会社) 岡田 敏希



けいはんなエコシティ推進プランの概要と実施企業、実証プロジェクトの推進スケジュールの紹介があり、スマートタップを活用したオンデマンド型電力マネジメントや電力カラーリング技術によるマネジメント等5つの特徴に続き、EV管理システム構築に向けたITSの取り組みについて具体的なお話がありました。

◆講演5「低炭素型都市構造への転換を目指して」-環境モデル都市・横浜の挑戦-

横浜市地球温暖化対策事業本部 担当部長 中島 徹也



環境モデル都市横浜での実証実験、エコ運転や渋滞の改善等 YMPZ (YOKOHAMA Mobility "Project ZERO") 4つの取り組み紹介の後、横浜市中期4か年計画の中で、環境最先端都市戦略、YSCP(横浜スマートシティ)の概要と8つの取り組みについてお話がありました。さらに YGP(横浜グリーンパワー)モデル事業の目的や導入イメージの紹介がありました。

【次世代自動車による交通システム】

◆基調講演「低炭素型の交通システムとエネルギーマネジメント」

(社)新エネルギー導入促進協議会代表理事 石谷 久



次世代自動車推進の推移に触れ、今は05年来のEV推進への回帰と普及加速の時期であるとお話があり、国のエネルギー戦略の基本目標を踏まえ、将来も持続可能な次世代自動車と必要な技術的特性についてお話がありました。更にEV・pHVタウン構想概要と将来像の紹介に続き、情報通信技術により効率的にバランスをとり、電力の安定供給する送配電網がスマートグリッドであり、全体の交通効率化システムや地域特性への適合を目指しているITSの動きと類似しているとお話がありました。

◆講演1「次世代自動車用蓄電システムにおける電力利用の期待と課題」

(財)電力中央研究所・材料科学研究所 上席研究員 池谷 知彦



電気事業での電気自動車普及により環境にやさしく電力需要増加などの期待に触れた後、過去に電気自動車が普及しなかったことを踏まえ、革新的な二次電池の開発や次世代自動車用高性能蓄電システムの開発が進んでおり、普及には的確な充電インフラ設置が重要であるとの話がありました。最後に車両の位置情報やインフラ設備の位置情報などを知らせる、ITS技術が電気自動車普及を後押しするとお話がありました。

◆講演2「新潟県における『EV・PHVタウン』取組みについて」-トキを越え未来を拓くクルマです-

新潟県産業労働観光部産業振興課 新エネルギー資源開発室 政策企画員 神田 尚樹



電気自動車の取組みについて、普及推進条例の制定や普及啓発内容の紹介があり、EV導入支援内容や充電インフラ整備状況のお話がありました。また、EVによるメリット付与の仕組みづくりや、助っ人EV、アンチスリップ制御技術など県独自の特徴あるEV関連技術開発の紹介がありました。

◆講演3「長崎EV&ITSプロジェクト」-離島型・地域型エネルギー・観光情報 地産地消モデルの構築を目指して-

長崎県産業労働部 政策監 鈴木 高宏



離島の特徴と活性化への取組みの話と、長崎EVとITSプロジェクトの概要の紹介がありました。重要ポイントとして、未来型ドライブシステムの構築、統合観光情報プラットフォームの整備、地元ワークショップ活用による情報発信・普及啓発により、EV&ITSスマート社会を構築し離島型・地域型のモデルを構築していくとお話がありました。

◆講演4「電気自動車が拓く京都の未来」

京都府文化環境部環境政策課 課長 南 且好



電気自動車と京都の歴史的な関係についての紹介があり、京都府におけるEV・PHVタウン構想について、電気自動車等普及促進計画や次世代自動車パートナーシップ倶楽部の設立、普及促進に関する条例の制定などの紹介がありました。また、京都EV・PHV物語では、EV・PHVレンタカーやタクシーでの古都巡りで特典を設けるなど観光地京都ならではの取組みが紹介されました。

国際セッションでは、本年の釜山での ITS 世界会議から読み取れる国際動向を報告いただき、また、アメリカ、ERTICO、中国、台湾からゲストをお招きして講演をいただきました。

【世界会議報告会】

ご挨拶 / ITS Japan 専務理事 天野 肇



釜山の世界会議では、ネットワーク社会の進展に呼応した ITS の新たな展開、交通分野での地球温暖化対策の総合的取り組み、路車・車車協調型システムの実証実験と実用化、実用化の課題の4つのテーマが議論されたと紹介し、このあと領域ごとに専門の方々から報告をしていただくとの挨拶がありました。

1.釜山大会概要報告 / ITS Japan 国際委員会 委員長 尾崎 信之



開催実績、主要イベント、展示および出席者等を写真も含め紹介された後、今回の世界会議では、スマートフォン、マルチモーダル、スマートシティ等をキーワードとして、持続可能な次世代ネットワーク社会の実現に向けた政策、戦略の論議、路車・車車協調型システムの実証実験の推進や実用化に向けた政府主導、資金、国際連携のあり方等の課題がセッション、展示、ショーケース、デモ等を通じて、提示、論議されたことが報告されました。

2.ITS による環境貢献 (CO2 削減効果等) / (財)日本自動車研究所 米沢三津夫



日米欧の連携により進めている CO2 削減に関する国際的な評価手法の開発に関し、SS12“Energy ITS”での議論を中心に報告されました。また、交通情報センター(テクニカルビジット)による渋滞緩和の取り組み状況の報告もされました。

3.交通マネジメント / (財)道路システム高度化推進機構 道下 昌彦



ETC 等を用いた道路課金システムの動向に関し報告されました。また、韓国版 ETC の Hi-pass の運用状況に関し、韓国道路公社訪問による情報も提供されました。

4.物流・都市 / ITS Japan 新交通物流特別委員会 畑瀬 勉



「都市」に関する論議から、スマートシティでの膨大な収集情報の活用、スマートフォンへの期待、アジアメガシティが抱える課題等、また釜山市街の ITS 事情が報告されました。また、「物流」では、スマートフォンの活用、RFID によるトラッキング、マルチモーダルへの ITS 活用等の動向が欧州の Freiloft プロジェクト、韓国での状況(テクニカルビジット等)も含め報告されました。

5.協調システム動向と実証実験(FOT、通信技術の動向を含む) / ITS Japan 立松 淳司



安全の論議はグローバルに研究から実証実験、実用化フェーズへ移行し、加えて環境、利便・快適の論議が活発化してきていることと欧州での標準化の加速、米国での 2013 年の V2V の実用化判断に向けた活動動向が報告されました。また、韓国の協調システムの取り組み状況も紹介されました。

6.道路交通情報に関する最新動向 / 日本電気(株) 前川 誠



スマートフォン、クラウド、プローブをキーワードに韓国の状況も含め報告されました。スマートフォンをカーナビと連携させたシステム、さらに自動車のネットワーク化、プローブによる個別情報の収集システム等に関し、セッション、展示からの情報が報告されました。また、釜山交通情報センター(テクニカルビジット)でのプローブも活用した最新の交通情報の収集・配信状況について報告されました。

7.デモ・ショーケース・展示 / ITS Japan 八木 浩一



今回のテクニカルビジット、ショーケースは、韓国における実用化フェーズと将来を、交通情報、交通マネージメント、協調システム、環境、都市・物流といった切り口で見せていることを、交通情報センター、韓新新港等のテクニカルビジット、バスおよび歩行者対象のショーケース等の主な出し物の紹介とともに報告されました。また、展示に関しては、2013年東京大会への反映という観点からも状況報告されました。

8.関連会議 / ITS Japan 常務理事 赤塚 英彦



釜山世界会議に合わせ同時期に開催された関連会議の中から、ITS Japanが参画した、世界会議理事会、アジア太平洋地域理事会および National ITS 連合会議(世界各国の ITS 推進団体による会議)での論議内容について紹介されました。

9.閣僚級ラウンドテーブル / 国土交通省道路局 道路交通管理課 高度道路交通システム推進室長 大庭 孝之



開会式の直前に行われた韓国国土海洋部主催による「閣僚ラウンドテーブル」の概要および会議において各国閣僚により確認されたキーメッセージが紹介されました。

閉会挨拶 / ITS Japan 常務理事 赤塚 英彦

【海外ゲスト講演】(モデレーター:天野 肇 ITS Japan 専務理事)

◆Sheryl J. Wilkerson President, Willow, LLC, USA(ITS-America)



ITS America の組織、活動、DOT との関連、DOT の主要プロジェクトである IntelliDrive の最新動向、オバマ政権の目指す考え方等が報告されました。最後に来年開催されるオーランド世界会議について紹介されました。

◆Vincent Blervaque Director, Development and Deployment, ERTICO



ERTICO の組織、活動、EU イニシアティブとの関連および欧州全体での道路交通問題への取り組み、ITS Action Plan をベースとした動向が報告されました。

◆王笑京 交通部公路科学研究院 総工師(ITS China)



中国における ITS の戦略、開発、標準化および適用事例について報告されました。2001年からのITSの開発、導入の経緯と今後の5カ年を含めた2015年までの計画について紹介されました。

◆張学孔 国立台湾大学土木研究所 教授(ITS Taiwan)



ITS 台湾の組織、活動およびプロジェクト、官との連携および台湾としての ITS 推進のキー組織である TPO (Telematics Promotion Office) と TTIA (Taiwan Telematics Industry Association) の役割と活動について報告されました。最後に来年6月に高雄で開催されるアジア太平洋 ITS フォーラムについて紹介されました。

◆モデレーター:天野 肇 ITS Japan 専務理事



【閉会挨拶】

ITS Japan 副会長 坂内 正夫



ITSは毎年実用化が加速し、分野も交通に留まらずエネルギー、スマートシティー関連など大きく発展しようとしているときに日本はもっとスピードアップをし元気を出さなければならない。今回のフォーラムは、欧・米・アジアから海外ゲストを招き今やグローバルな舞台に発展しており、2013年東京で開催されるITS世界会議の成功に向け、本日参加の皆様の力強いご支援を賜りたいと、挨拶されました。

以上